

2021年8月14日（土）

【聖書箇所】 使徒の働き 第14章 1節～15節

【参加者】 10名

【進め方】 伝道者による説教の後、参加者それぞれが説教を通して、あるいは直接聖書から聴いたことを共有。

【記録者による説教聴聞】

■パウロとバルナバは宣教に困難をきたしても、語り続けます。

群集に語りました。そこにある一人の人がいました。

「さてリステラで、足の不自由な人が座っていた。彼は生まれつき足が動かず、これまで一度も歩いたことがなかった。彼はパウロの話すことに耳を傾けていた。パウロは彼をじっと見つめ、癒されるにふさわしい信仰があるのを見て、大声で『自分の足で、まっすぐに立ちなさい』と言った。すると彼は飛び上がり、歩き出した。」（新改訳聖書 2017）

ここで、絶望の中に生きてきた、歩けない者が福音に出会います。

「治りたい。パウロが話すこの神に、治していただきたい。ここしかない」そのように思っていたでしょう。そして、パウロの言葉「立ちなさい」が現実になります。彼は単に立ち上がったのではなく、飛び上がりました。

神の業は、私たちの思いをはるかに超えて、訪れます。きっかけは福音と信仰。良き訪れに応答するものに、神が出来事を起こします。

■この時、周りにいた群集は、パウロたちが語っていた福音ではなく、人間パウロの癒しの奇跡に圧倒され、パウロを崇めます。

しかし、パウロは言います。「皆さん、どうしてこんなことをするのですか。私たちもあなた方と同じ人間です。」

「同じ人間」、私たちもあなた方と同様に感情に揺れ、欲に惑わされる罪人です。この罪人を救ってくださる、主キリストによって、この奇跡が起きたのです。私たちは、福音の運び手です。あなた方が、捨てるべきものは、偶像礼拝です。人を拝みがちな人間です。しかし、唯一の救い主なるキリストの福音を受け入れてください。私を見るのではなく、あなたを見るのではなく、ただ一つ、生ける神を見てください。

■私達は祈ります。

祈る時、目をつむっていてもいいです。目を開けていてもいいです。そこに、いつも主イエスがおられますよね。そうです。主が共にいてくださいます。今、この瞬間も。

神は天地万物を創造してくださっただけではなく、今も私達と共に歩いてくださいます。

主イエスはあなたのために、十字架にかかられました。そして、神の家族とされました。主は私を認めてくださり、私を好きでいてくださいます。

主は今も一人一人と出会い、共に歩いて下さっています。

【聴いた者たちに残ったこと】

- ・エルロイ（ご覧になっている神）、インマヌエル（共におられる神）を実感
- ・たった一人に目を止められる神様に、決して神様は私達を見過ごさないことを思う
- ・一人で聖書を読んでいた時には、パウロを崇めた群集と自分は無関係だと考えていたが、人を拝みがちな人間の性質が自分にもあることに気づかされ、偶像礼拝の戒めを思わされた。
- ・祈る時、共におられるイエス様をしっかり覚えていたい。